



TOYAMA
UNIVERSITY
HOSPITAL

富山大学附属病院だより

信 頼

特集

「赤ちゃん頭のかたち外来」開設にあたり
病理部部长就任のご挨拶と病理部のご紹介
こどものこころと発達診療科のご紹介
新任教授の抱負
放射線部のご紹介
新しいリハビリテーション室がオープンします

食と健康「寒い季節のあったか食材 ～生姜～」

読むくすり箱「お薬が余ったら、かかりつけ薬局で相談しましょう」

看護師紹介「感染管理認定看護師」

連携病院のご案内「南砺市民病院」

季節のご挨拶

地域連携予約についてFAXによる受付を開始しました。



富山大学附属病院
ウェブサイト



富山大学附属病院
facebook

かわら版

TOYAMA UNIVERSITY HOSPITAL

Vol.

145

2022年12月発行



「赤ちゃん頭のかたち外来」開設にあたり

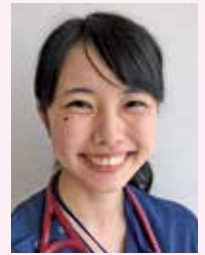
赤ちゃんの頭の変形に対するヘルメット矯正治療がマスメディアに取り上げられ、相談や治療を希望される親御さんからの問い合わせが全国的に増加しています。向き癖などによる頭蓋変形が、将来的な眼鏡の掛ける位置のずれや歯の噛み合わせに影響がでる可能性が指摘されており、そのことが親御さんの不安がさらに大きくしているようです。通常、赤ちゃんの頭の形は自然に丸く整っていきますが、頭の変形を認め理学療法を行っても進行する重症例では、変形が自然治癒する可能性が少ないとされています。

北陸では赤ちゃんの頭の変形に対して、相談からヘルメット治療まで一貫して対応できる施設がありませんでしたので、2022年7月より「赤ちゃん頭のかたち外来」を開設しました。診療の流れとしては、まず来院されて問診・診察と画像検査（X線、CT）を行い頭蓋縫合早期融合症など器質的な疾患が無いことを確認します。頭の変形の重症度が中等症以上で、ご両親の治療希望がある場合にヘルメット治療を行います。治療開始前に3Dカメラで赤ちゃんの頭の容積を測定して頭蓋の変形を正確に評価します。そのデータを元に個々の赤ちゃんにとって理想の頭の形を目指してヘルメットを作ります。撮影2週間後にヘルメットが完成し、お風呂以外の1日23時間のヘルメット装着を目指します。その後、1か月ごとにヘルメット内面のスポンジ状のパットの厚みを変えて、赤ちゃんの頭の成長に合わせて微調整を繰り返します。早いお子さんでは装着後1か月でお母さんが実感できるくらい頭蓋変形の改善を認めること



周産母子センター
センター長

吉田 丈俊



小児科
医員

福島 優

があります。ヘルメット矯正治療は約6か月間継続し、1歳位で治療を終了することが多いです。

頭の形は赤ちゃんの生命予後に影響しませんが、ご両親の悩みは医療者の想像以上に深いことがあります。お陰様で「赤ちゃん頭のかたち外来」の予約枠はほぼ埋まっており県外からの患者さんも多く来られています。これからも赤ちゃんの頭の形に悩む親御さんの不安を解消できるように頑張っていきたいと思っています。



治療に使用するヘルメット

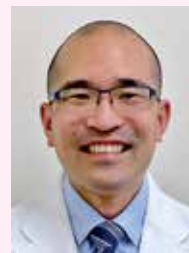
病理部部長就任のご挨拶と病理部のご紹介

2022年5月1日付で富山大学病理診断学教授および富山大学附属病院病理部（病理診断科）部長を拝命いたしました平林健一と申します。よろしくお願いいたします。病理部では、病理診断学講座と病態・病理学講座が協力して病理診断を行っています。現在、8名の病理医が在籍し、そのうち5名が病理専門医、1名が口腔病理専門医、5名が細胞診専門医、2名が分子病理専門医の資格を有しています。また、病理部には5名の臨床検査技師が在籍し、そのうち4名が細胞検査士の資格を有しています。病理の業務は大きく、検査や手術などで採取された組織標本を診断する組織診、スクリーニングなどで採取された細胞を診断する細胞診、病院で亡くなられた患者さまの死因や病変を診断する病理解剖にわけられます。検体数は年々増加傾向で、2021年の診療実績は組織診が7,330件、細胞診が4,625件、病理解剖が42件です。また、今年の5月には自動免疫染色装置が導入され、より精度の高い診断が行えるようになりました。

現在病理部では分子病理診断技術の導入、コンパニオン診断の院内実施化、バイオバンクの整備などを計画しています。FISH

病理部(病理診断科)
部長

平林 健一



などの分子病理診断技術の導入は、希少がんや難解例の診断に大きく寄与すると考えます。現在、特定の薬剤が有効かどうかを確かめるコンパニオン診断の多くは外注で行われていますが、院内実施化により結果返却が大幅に短縮され、患者様の早期治療につながるかと期待されます。組織検体の凍結保管などを行うバイオバンクは、がん遺伝子パネル検査をはじめとする最新のゲノム医療に関連する事業ですので、しっかりと整備していきたいと考えています。

高度医療施設である富山大学附属病院には県内外から様々な疾患の患者様が集まってきます。病理部では患者様の治療の一助となれるよう、各診療科と連携して正確で迅速な診断を心がけ日々業務に励んでいます。これまでの技術を向上させ、さらに最新の技術を導入することで、皆様に貢献できるように努めてまいります。



ディスカッション

こどものこころと発達診療科のご紹介

令和4年6月1日付で富山大学附属病院こどものこころと発達診療学講座 客員教授に就任いたしました辻井農亜と申します。高等学校を卒業するまでは奈良県、大学生活は福岡県、大学卒業後は大阪府で過ごしてきました。雪国での生活経験はありませんので、これから少しずつ慣れていきたいと考えています。これまで子どもから大人まで幅広く、こころと発達の問題に関わってきました。

こどものこころと発達診療学講座は、富山県が令和3年度に設置した「富山県小児医療等提供体制検討会」の最終とりまとめ（令和4年3月）を踏まえた取組みの一つです。これまで富山県では、虐待にトラウマや発達障害、さらにはそれらによる二次障害など、こころの問題や発達に悩む子どもに対する医療体制が十分ではない実情がありました。そのため本講座は、こどものこころと発達に関する専門家の育成と、富山県における既存の専門的機関やかかりつけ医と連携するシステムを構築することを主な目的として設置されました。こころの問題や発達に悩む子どもやその家族を、地域で継続的に切れ目なく支援できる体制を構築すべく活動を行ってまいります。

また、富山大学附属病院では「こどものこころと発達診療学講座」と同時に「こども医療センター」が設置され、多分野にわたる専門医・スタッフが育成医療に関わる幅広い高度専門医療を提供しています。こどものこころと発達診療科もその一角として富山県の小児医療の充実と安心を確立するために活動してまいります。

こどものこころと発達診療科
客員教授
辻井 農亜



こどものこころと発達診療科は、0から15歳までのこどものこころや発達に関わる様々な問題に対して診療を行います。診察にはこどものこころと発達診療の専門医の育成のため、複数名の若手医師が同席させていただくことがあります。富山に赴任して、若手医師達の賢明さと豊かな感性には日々驚かされています。そんな若手とともに、富山県の子どもたちひとりひとりの物語を大切にしたいと診療を行いたいと考えています。



新任教授の抱負

このたび、令和4年7月1日付で富山大学呼吸器外科の初代教授に就任致しましたので、ご挨拶させていただきます。

私は大分市の出身で、幼い頃は田園風景が広がった七瀬川の近くで育ちました。富山でいうと熊野川周辺の地域が近いでしょうか。中学から大学まではサッカー部で切磋琢磨し、長崎大学医学部を卒業した後は東京虎の門病院で初期研修を行いました。その後母校に帰り大学院では病理診断と寿命の研究を行い、その関連で米国 California 大学に留学させて頂きました。

帰国後は呼吸器外科を選択し、多くの手術に携わって参りました。特に肺移植は私が在籍した時期に立ち上がり、素晴らしい経験になったと感じています。その後、移植医療の経験から、“臓器を再生する”という研究に没頭しました。米国 Yale 大学に留学し、肺の臓器再生技術を日本に導入して研究グループを立ち上げ、沢山の後輩に支えられながら今日まで続けることができました。

さて現在は、富山大学呼吸器外科で臨床の基盤を確立している最中です。幸いなことに、少数精鋭のやる気のある医局員によって、教室は加速しています。その上で、私が行う仕事は日本全国から医局員を募り、大学の講座としてよりハイレベルな、世界に伍する教室を作っていくことだと認識しております。

私の富山の印象は、“これぞ日本”です。富山県民の方は穏やかで、「和を以て貴しとなす」を体現されているように思います。四季ははっきりしていて、夏は暑いですが時々

富山大学呼吸器外科
特命教授
土谷 智史



さっと雨が降り、秋は紅葉がきれいで晴れが多く、冬は雪が続く。神通川のほとりをランニングすると、夕焼けは美しく立山が雄大に見渡せます。そして広々とした田園が広がり、食べ物がおいしい。私は富山に来て本当に良かったと思っています。

一方で、医学生に富山の魅力を聞くと芳しくありません。いろいろと聞きましたが、集約すると、“刺激が少ない”ということだと思います。“雪が降る”や“観光地が少ない”などは私にはどうしようもありませんが、手術を中心とした臨床、移植再生研究、そして個別の趣味でも積極的に学生や若手医師に働きかけ、関東にいる方々よりもっと多くの刺激を与えていきたいと考えています。

私の原動力は、“まだ見ていない風景を見てみたい”、という思いです。立山連峰の頂きに立って、これから広がっていく新しい世界に、また思いを馳せたいと考えています。



10月の立山登山に於いて

放射線部のご紹介

放射線部は一般撮影、血管撮影、CT、MRI、核医学、放射線治療および手術室の7部門から構成されています。診療放射線技師は39名在籍しており、24時間体制で高度先進医療を診療放射線技術で支援しています。診療時間は各部門に専門資格を有する技師または専門的知識を持った技師が配置されています。診療時間外は担当技師が対応できない領域の緊急検査や治療の支援要請があった場合に備え、専門領域の技師が24時間体制で自宅待機しており、スクランブル対応しています。

医療で診断や治療などに用いる放射線による被ばくを医療被ばくと言います。もちろんこの医療被ばくも危険性はゼロではありませんが、常に放射線の種類や質と量が適正に管理されています。また撮影装置の開発など技術革新により、アナログのX線フィルムか

放射線部
診療放射線技師長
森 光一



らデジタルX線画像へと移行すると共に診断能の向上や被ばくの低減化が図られています。さらに全国の国立大学病院と連携を取り、統計的な被ばく線量の監視を行っているだけでなく、日々発生するさまざまな技術的な課題に対しては技師長ネットワークを介して迅速に解決を図り、皆様へよりよい放射線技術が提供されています。

医療の中の一隅である診療放射線技術はさらに細分化された専門領域の中で確実に技術革新を進め、全国の国立大学病院放射線部と情報を共有しながら、日夜皆様の診断治療に自信をもって支援し続けています。



放射線治療風景

新しいリハビリテーション室がオープンします

富山医科薬科大学附属病院の診療開始以来、病院1階のリハビリテーション（リハビリ）室でリハビリ診療をおこなってきましたが、この度、2022年12月12日に新しいリハビリ室に移転しました。新リハビリ室は、従来のリハビリ室の真下に位置し、中央エレベーターで地下1階においていただくことになります。地階ではありますが、病院が傾斜地に建っているため、地下室ではありません。屋外と地続きになっており、大型の窓からの採光があり、屋外治療スペースがリハビリ室を囲んでいます。

新リハビリ室には、さまざまなリハビリ訓練機器や計測装置が新たに導入されました。その一部をご紹介します。トヨタ自動車が開発した Welwalk2000 という最新の下肢麻痺のリハビリ支援ロボットや、天井のレールを移動する装置が体を支え、転倒のリスクを最小限にしつつ効果的な歩行訓練ができる安全懸架システム、体重を支える力が脚になくても立位が取れるように免荷装置を組み込んだ歩行器など、まひや筋力低下のため、歩行が困難な患者さんへの訓練機器が充実しました。また、トレーニングマシン類やトレッドミルを新たに導入し、より積極的な筋力増強訓練や有酸素

リハビリテーション部
部長
服部 憲明



運動が可能となりました。物理療法についても、軽い有酸素運動から筋トレのような高い負荷の運動までベッド上で実施できる電気刺激装置や、ストレッチをおこなうことで、服を着たまま、立体的な温熱作用を作り出すラジオ波温熱治療器などが加わりました。

ユニークなものとしては、キッチン（実際に調理できます）、トイレ、浴室、階段など、自宅の環境を想定して訓練ができる日常生活活動（ADL）スペースも新たに設けました。音声分析システム、3次元動作解析装置や筋電計、体成分分析装置、スパイロメーターなどの計測機器が導入され、患者さんの様々な身体機能について客観的な評価が可能となり、治療効果判定や臨床研究に活躍します。このような素晴らしい環境で、患者さんが、しっかりと、安心して、楽しく、リハビリに取り組んでいただけるように、我々リハビリスタッフも、心機一転して、治療に取り組んで参ります。



新しいリハビリテーション室



ADL スペース



寒い季節のあったか食材 ～生姜～

栄養管理室 室長 甲村 亮二

からだを温める食材として有名な“生姜”。暑さで弱った胃には食欲を増進し、寒い冬の季節には身体を温めます。中国では生姜と呼ばれ、紀元前 500 年ごろから薬用として利用されてきました。寒い季節になりますと生姜を使用したドリンクやスープなどが増えます。



2種類ある生姜の冷えとり成分

1. ジンゲロール

ジンゲロールは生の生姜に多く含まれます。酸化が早いので、食べる直前に切ったり、すりおろしたりして、なるべく早く使い切るようにしましょう。免疫力を高めたいときや風邪を予防・改善したい時には生の生姜が効果的です。特に生姜の皮の下には、ジンゲロールが多く含まれるので、皮ごと使用すると効果的です。

2. ショウガオール

生姜を過熱・乾燥させるとショウガオールに変化します。ショウガオールは胃腸の粘膜を刺激して血流を高め、身体の深部の熱を作り出す働きがあります。

私たちは毎日呼吸をして酸素を取り込んでますが、このうち数%は体内で酸化し、活性酸素に変化しています。この活性酸素は、細胞を参加させたり、サビさせたりするため、老化の原因の1つと言われています。ジンゲロール、ショウガオールともに抗酸化物質ですので、寒い時期だけでなく1年通して食べましょう。

生姜の3大効能

- ・細菌の増殖を抑え、免疫力を高めます。
- ・血行を促進し、冷え性改善に繋がります
- ・脂肪を分解し、基礎代謝を上げます

【たらの鍋物】生姜の風味を生かしてあったかく

寒い時期は、蛋白質とビタミンを一緒に摂る鍋料理がおすすめです。

旬の野菜類やきのこ類は、ビタミンや食物繊維が豊富で、生姜は、体温上昇と血流促進を促す効果があります。

たら…………… 2切 (80g)
 焼豆腐…………… 1/2/丁 (150g)
 白菜…………… 100g
 人参…………… 20g
 里芋…………… 1～2個 (60g)
 生しいたけ… 2枚 (20g)
 生姜…………… 適量
 濃口醤油…………… 大さじ1
 薄口醤油…………… 大さじ2
 砂糖…………… 大さじ1
 かつお昆布だし… 300ml程



お薬が余ったら、かかりつけ薬局で相談しましょう

薬剤部 橋本 美紀恵

お薬は、飲み残しや飲み忘れなどで余ってしまうことがあると思います。そのような余った薬の数と飲まなかった原因をかかりつけ薬局では確認しています。余った薬が多くなると、間違った薬を飲んでしまう、必要な量より多く飲んでしまうというような危険性が出てきます。余った薬を薬局へ返して薬剤費を返してもらうことは出来ませんが、新たにもらう薬の数を減らすことは出来ます。



薬局へ相談	薬局の対応
薬が余る	薬の数を調整
飲みにくい	飲みやすい薬、時間帯を提案
飲み間違い	正しい薬の飲み方を説明

お薬は、正しく飲むことでその効果を発揮します。お薬が余るのは、飲みにくい薬がある、飲む回数を間違えている、飲み忘れる時間帯がある等の問題があるのかもしれませんが、薬局では、その問題点について患者さんと一緒に考えて解決策を提案します。

お薬の余りを減らして十分な効果が得られるように、かかりつけ薬局に相談しましょう。

当院の認定看護師をご紹介します

感染管理認定看護師

私たち感染管理認定看護師は、患者さんをはじめとし、面会者・職員・学生など病院に関わるすべての人を対象として、感染対策を推進しています。外来や病棟で正しく感染対策が行われているかを確認する院内の巡回、感染症発生時の感染対策指導、職員や学生への教育等を行っています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の感染対策の中心となり、医師、薬剤師、臨床検査技師を含む多職種と連携を行いながら活動しています。

私たちから、今すぐ実践できる感染対策のポイントをお伝えします。

マスクをさわらない



マスクの表面にも、菌やウイルスが付着しているので、マスクの表面には触れないようにしましょう。また、マスクを一旦外して付け直す際には、マスクの「表裏」を確認してからつけましょう。

目・鼻・口をさわらない



人は無意識に目をこすったり、鼻を触ったりするクセがあります。菌やウイルスは、自分の手を介して目・鼻・口の粘膜から侵入します。意識して、目・鼻・口に触れないようにしましょう。



新型コロナウイルス感染症が流行して以降、患者さんやそのご家族には、面会制限などご不便をおかけしています。感染症にかかることで悲しい思いをする方々が少しでも少なくなるように、引き続きご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

感染管理認定看護師

青木 雅子・松浦 美里・笹原 志央里

最高の患者安全と医療の質を目指しながら温かく地域包括医療・ケアを支える南砺市民病院
南砺市民病院 清水 幸裕



Nanto Municipal Hospital 南砺市民病院

南砺市民病院は、病床数 175（急性期 2 病棟、回復期 2 病棟）の病院で、常勤医は研修医 5 名を含め 35 名です。地域医療構想が進められる中、高齢化率が進む地域で救急・急性期から回復期、そして在宅医療までシームレスな医療を提供しています。当院が大切にしている 3 本柱は、1. 安全で質の高い医療の提供、2. 臨床倫理の実践、3. 地域包括医療・ケアを支える医療人の育成です。1. 病院として患者さんに本当に信頼されるためには、患者安全と医療の質が重要な基盤であり、その評価のために日本医療機能評価機構の病院機能評価があります。当院は 2001 年より 5 回認定されていますが、より高い基準を目標に持続的な改善活動を行うため、2021 年 12 月に国際医療機能評価機構 JCI の審査を受け認証されました。自治体病院ではわが国初の認証です。地域の小病院であっても、最高の安全と質を備えた医療を提供する病院を目指していきたいと考えています。2. 臨床倫理は、医療現場で起こっている倫理問題に対して患

者さんの意向をできるだけ尊重しながら、関係者が皆納得できる解決策を模索する活動であり、2015 年から院内で開始しましたが、昨年からはその活動を地域に広げています。臨床倫理は患者中心の温かい医療の実践そして医療の質にとって不可欠な要素です。当院の活動が評価され、2023 年 3 月に開催される第 10 回日本臨床倫理学会の大会長を清水が務めます。3. 地域医療を支えるにはそのための医療人の育成が必要であり、当院では基幹病院となって総合診療医と特定行為看護師を育成しています。教えることは学ぶこと、人材育成は病院全体が学び成長するためにも重要です。若い研修医と各種専門医との間に垣根がなく、病院には常に活気があります。

このように、当院は人材を育成しながら病院機能の向上に努め、在宅医療を含めた地域包括医療・ケアの充実に貢献できる活気ある病院づくりを行っています。



JCI認証決定を知らされた直後の集合写真



上田 剛士先生『研修医のための臨床推論』
研修会後の記念写真

〔病院名〕 南砺市民病院

〔院長〕 清水 幸裕

〔休診日〕 土曜日・日曜日・祝日
年末年始（12/29～1/3）

〔所在地〕 富山県南砺市井波938番地

TEL.0763-82-1475 FAX.0763-82-1853

〔診療科〕 内科、循環器内科、呼吸器内科、消化器内科、腎臓内科（人工透析）、糖尿病・代謝・内分泌内科、血液内科、外科、消化器外科、肛門外科、小児科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、婦人科、皮膚科、泌尿器科、脳神経外科、心療内科、精神科、歯科口腔外科、リハビリテーション科、放射線科、病理診断科（24科）

〔病床〕 一般病床 175床



インフルエンザにもご注意を

病院長 林 篤志

早いもので2022年の年の瀬が近くなって参りました。

皆さまには、いつも病院内での感染対策にご協力を賜り、誠にありがとうございます。コロナ禍はまだ続いており、気が抜けない日々ですが、今年インフルエンザの大流行が懸念されています。これまでコロナ禍で皆さんが、しっかりマスクをしてインフルエンザも同時に予防していたのですが、世界的にインフルエンザに対する免疫が

低下しているようで、インフルエンザにかかりやすくなっています。すでに南半球では大流行しました。日本もだいぶ寒くなってきておりますので、インフルエンザのワクチン接種がまだの方は、ご自身のためにぜひ今年は受けていただきたいと思います。

会計待ちなどでまだまだ改善すべき点多く、現在しっかり取り組んでいるところです。皆さまからのご意見等がございましたらご意見箱にお寄せいただければ幸いです。

それでは良いお年をお迎えください。



これから寒くなりますが、ご自愛ください

副病院長 絹川 弘一郎

昨年一昨年と大雪に見舞われた富山市でしたが、今年も長期予報では少なくない降雪が見込まれているようです。私の専門領域の心臓病は特にこの季節に悪くなる方が増えるので、患者さんとはいつも冬の過ごし方を相談させてもらっていますが、ここ2年のインフラにまで影響の出る大雪ではなかなか対応が難しいと感じました。加えて、今年の冬もコロ

ナがどういう状況か気になるところです。物事への対応全てに言えることですが、最悪の事態を想定するというのが大事なと思います。できるだけの備えをして乗り切りたいと今から気を引き締めております。さて、附属病院では患者さんのニーズにお応えすべく、各診療科ベストの布陣で最先端の医療をご提供しております。富山県医療の最後の砦としての役割をしっかり果たせるよう、全員で努力しておりますので、お知り合いの方にもどうぞ当病院をお勧めいただけましたら幸いです。

ケーブルテレビ富山 ~ 富山大学附属病院講座 ~ 番組放送のご案内

「心不全 最新治療のご紹介」

循環器センター長 絹川 弘一郎 先生

【放送日時】 12月10日(土)・13日(火)～16日(金) 10:00～、21:00～
12月11日(日) 10:00～、20:00～
12月12日(月) 9:00～、21:00～

「メタボ・糖尿病、予防の鍵は？ とやまパラドックスとは？」

糖尿病センター長 戸邊 一之 先生

【放送日時】 12月17日(土)～23日(金) 10:00～、21:00～

編集後記

今年度からかわら版の編集担当となりました、三原美晴です。頼りになる広報委員の方々へ支えていただきながら頑張っ参りますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。前任の米田哲先生は長年編集リーダーとして、毎回素晴らしい広報誌を作成されておりました。これまでのかわら版は、病院のホームページからも読

むことができます。私も見てみましたが、懐かしい話題もあつて、ちょっとのつもりが読みふけてしまいました。そして、富山大学附属病院のホットな話題に加えて、こんなことを載せてほしいなど、おもしろいアイデアがございましたら、ぜひお聞かせください。

広報委員会 三原 美晴

地域連携予約について FAXによる受付を開始しました。

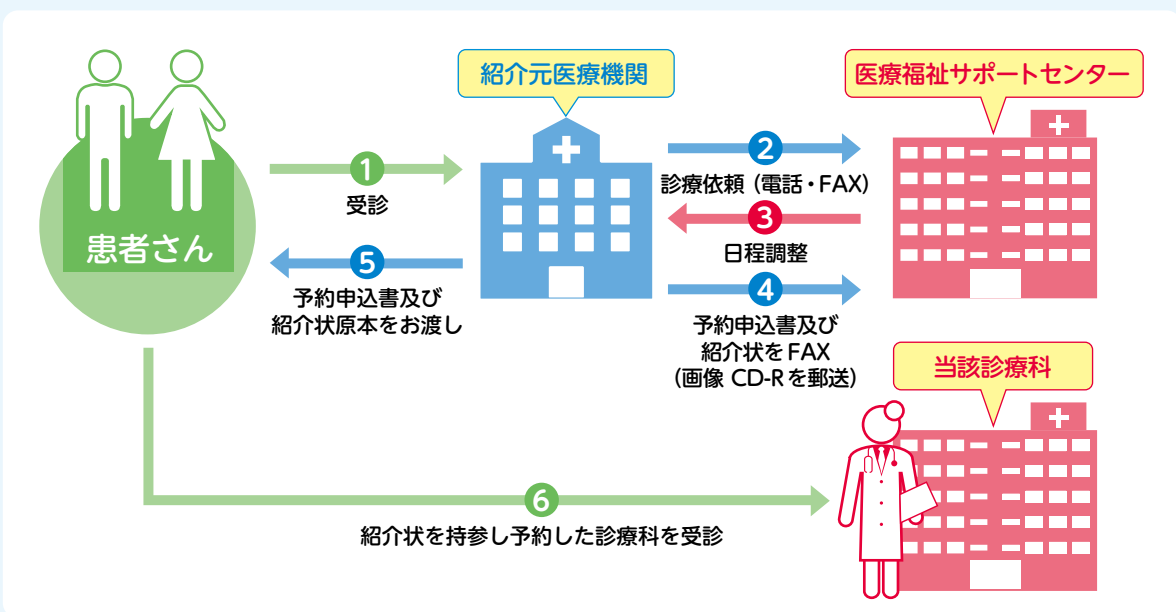
連携協定病院, 連携登録医, 地域の医療機関の皆様

日頃より、富山大学附属病院での診療にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。

当院では、患者様をご紹介いただくにあたっては、地域医療連携室にお電話をいただいて地域連携枠での予約をお取りいただく運用としてまいりました。しかし、診療科の一部では、一旦診療科に確認するか、紹介状を改めてお送りいただいた後でないで予約の日程が決められないなどの理由で、長時間電話口でお待たせするなど、皆様には大変なご不便とご迷惑をおかけしてまいりました。

このような問題を少しでも解消するために、電話によるご予約に加えて、FAXでもご予約をお受けできるよう運用を変更いたしました。

電話で予約のご依頼をいただいた場合には、これまで通りその場で日程等をお伝えした上で、改めて所定の様式の紹介状と問診票をFAXで当院まで送付いただきます。FAXでご依頼いただいた場合には、診療科に関わらず、当日を含む3営業日以内に、予約に関する情報をFAXにて当院よりご連絡申し上げます。



皆様方におかれましては、患者様に予約日時のお知らせのお手間をとらせるなど、大変なお手数とご迷惑をおかけいたしますが、患者様に円滑に診療をお受けいただくために、何卒ご理解とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

担当窓口 富山大学附属病院 医療福祉サポートセンター 地域連携枠予約受付
電話/076-434-7804 FAX/076-434-5105

※ ファックス番号が変更になり、地域連携枠予約専用番号となりました。